

# 『富士見町史』上巻 目次

発刊のことば ..... 富士見町長 三井 春富 ..... i  
 編纂と監修にあたつて ..... 監修者 武藤 雄六 ..... iii  
 尾藤 正英 ..... iv  
 浅川 清栄 ..... v

例 言 ..... vii

## 第一編 自然

### 第一章 位 置 ..... 三

### 第二章 地形と地質 ..... 四

#### 第一節 地 形 ..... 四

#### 第二節 地 質 ..... 八

### 第三章 陸 水 ..... 四

#### 第一節 富士見町の陸水 ..... 四

#### 第二節 湧水と河川の水質 ..... 四

#### 第三節 水生昆虫 ..... 四

#### 第四節 富士見町の藻類 ..... 六

## 第四章 気象 ..... 九五

### 第一節 気温 ..... 九五

### 第二節 降水量 ..... 九五

### 第三節 降 雪 ..... 九五

### 第四節 霧 ..... 九五

### 第五節 風 ..... 九五

### 第六節 日の出・日の入り・日照時間 ..... 一〇三

### 第七節 気象災害 ..... 一〇七

## 第五章 動物 ..... 一〇九

### 第一節 富士見町の動物相 ..... 一〇九

### 第二節 哺乳類 ..... 一一〇

### 第三節 鳥類 ..... 一一五

### 第四節 爬虫類・両生類 ..... 一二五

### 第五節 魚類 ..... 二三〇

### 第六節 昆虫類 ..... 二三〇

### 第七節 その他の動物 ..... 二三〇

## 第六章 植 物

一七〇

### 第一節 植物の分布

一七〇

### 第二節 植物と生活

一七〇

### 第三節 植物目録

一七〇

## 第二編 石器時代

一九一

### 第一章 旧石器時代の暮らし

一九一

#### はじめに

一九一

#### 第一節 旧石器時代の人々

一九一

#### 第二節 旧石器時代の生活跡

一九一

#### 第三節 旧石器時代の道具

一九一

## 第二章 新石器時代中期の民俗と文化

二五

#### はじめに

二五

#### 第一節 石器よりみた生業

二五

#### 第二節 石製工具と生活技術

二五

#### 第三節 衣類

二五

#### 第四節 土器と食文化

二五

#### 第五節 住居

二五

#### 第六節 高床倉庫

二五

#### 第七節 村の景観とその成り立ち

二五

#### 第八節 習俗と信仰

二五

## 第九節 世界觀と神話像

三六三

### 第三章 新石器時代の文化と遺跡の概観

四三三

#### はじめに

四三三

#### 第一節 早期—八ヶ岳西南麓の曙

四三三

#### 第二節 前期—農耕と村落の発展

四三三

#### 第三節 中期—富士眉月弧の時代

四三三

#### 第四節 後期—生活と文化の転換

四三三

#### 第五節 晩期—山麓の残照

四三三

#### 現代と遺跡

四三三

## 第三編 古 代

### 第一章 弥生時代

四七

### 第二章 平安時代

四七

### 第三章 八ヶ岳西南麓の遺跡

四七

#### 第一節 八ヶ岳西南麓の遺跡

四七

#### 第二節 遺跡からみた鍛冶址とその役割

四七

#### 第三節 山麓へ進出した人々の生活

四七

### 第四章 富士見町の古代製鉄

四七

### 第一章 日本の鉄産業史の概観

四七

第二節	金谷製鉄遺跡	五二
第三節	製鉄遺跡の追跡調査	五六
第四節	古代製鉄技術の研究	五三
第五節	金谷製鉄の年代と支配者	五四

第二節	金谷製鉄遺跡	五二
第三節	製鉄遺跡の追跡調査	五六
第四節	古代製鉄技術の研究	五三
第五節	金谷製鉄の年代と支配者	五四

## 第五編 近世

第一章	高島藩の政治	六三
第一節	藩政の成立と展開	六三
第二節	藩政の動搖と崩壊	六六
第三節	移転・廢村・合併	六四
第四節	村のしくみ	七五

### 第一章 高島藩の政治

六三

## 第四編 中世

第一章	考古資料よりみた中世	五七
-----	------------	----

### 第一章 考古資料よりみた中世

五七

第一節	砂原遺跡の中世村落	五七
第二節	町内発見の中世遺跡	五二
第三節	地下式坑について	五六
第四節	中世のくらし	六〇
第二章	中世富士見の風土と村々	六九
第三章	諏訪・武田の争いと富士見	六四
第四章	武田氏の支配と富士見	六一
第五章	武士たちの活躍と中世の終幕	七一
第六章	中世余話	七八
第一節	「伏屋」考	七八
第二節	中世の道	八九

第一節	村の制度と村役人	七五
第二節	村定	七四
第三節	宗門改と戸口	七三
第四節	村の構成	七二
第五節	村の財政	七一
第四章	耕地の開発と検地	七八
第一節	高島藩の検地の進行	七八
第二節	高島藩の検地仕法	八七
第三節	村々の検地と村高	八六
第四節	新切・切次・畠直の展開	八五

第五節 林検地	八四
第五章 貢租と課役	八五

第一節 本途物成	八五
第二節 小物成	八七
第三節 運上と冥加金	八九
第四節 夫役	八八

第六章 農業と農間余業	八三
-------------	----

第一節 農業	八三
第二節 農間余業	八六
第三節 出稼ぎと奉公人	九一
第四節 馬の飼育と売買	九五
第五節 中馬稼ぎ	九三

第七章 交通と経済	九九
-----------	----

第一節 甲州道中と宿場	九九
第二節 繼立てと助郷	九七
第三節 藩主巡見と主な通行	九四
第四節 宿の景観	九七
第五節 旅の道と生活の道	九五
第六節 甲州樹と甲州金	九六
第七節 穀留番所	九六
第八節 甲州騒動	九七

第八章 灌溉用水と水害—水と村—	九七
------------------	----

第一節 洪水と揚ヶ汐	九一
第二節 明和、安永期の用水紛争	九二
第三節 繰り越汐の開発と寛政の汐争論	九八
第四節 化政期以降の汐争論と水利慣行	九四
第五節 水害と川除	一〇四

第九章 林野と入会	一〇八
-----------	-----

第一節 御林と林野の利用	一〇八
第二節 地林と新林の紛争	一〇四
第三節 入会紛争	一〇二
第四節 入会慣行	一〇四
第五節 風除林	一〇六

第十章 桑畠一件と山留強訴	一〇七
---------------	-----

第一節 桑畠取り立てと入会山争論	一〇四
第二節 山留強訴の勃発	一〇五
第三節 一件の顛末	一〇六
第四節 山留強訴の歴史的意義	一〇七

第十一章 村方騒動	一〇五
-----------	-----

第一節 二つの草分け出入り	一〇五
第二節 木之間村大前小前騒動	一〇九
第三節 当町域での村方騒動の概観	一一四

第十二章 村と村の関係 ..... 一三

第四節 舞台建築と村芝居 ..... 二九

二九

- 第一節 御頭郷と御頭席論 ..... 一三  
第二節 親村と枝村 ..... 一四  
第三節 村々のまとまり ..... 一五  
第四節 道普請・行倒人処理と組合村議定 ..... 一六

年表 ..... 二八  
あとがき ..... 二九  
富士見町史・上巻・執筆者一覧 ..... 三〇  
富士見町史・上巻・編纂関係者一覧 ..... 三〇五  
写真・図・表目次 ..... 三三三

第十三章 村の生活 ..... 二七

- 第一節 家族と女性・子ども ..... 二七  
第二節 同族団と祝神 ..... 二八  
第三節 村のくらし（衣・食・住） ..... 二九

一五

- 第四節 村の遊び ..... 一五  
第五節 講と信仰 ..... 一九  
第六節 賴母子講と無尽 ..... 二〇五  
第七節 若者組 ..... 二〇八  
第八節 災害と対策 ..... 二二二

第十四章 宗教 ..... 二二〇

- 第一節 諏訪神社と御柱祭 ..... 二二〇  
第二節 神社と寺院 ..... 二二一

第十五章 教育と文化 ..... 二二五

- 第一節 寺子屋と筆塚 ..... 二四五  
第二節 心学と時中舎 ..... 二四五  
第三節 諏訪社 ..... 二五五